



城北小だより

夏休み直前号

令和5年7月21日
さいたま市立城北小学校
TEL 048-757-5391
児童数697名

◇学校教育目標◇

「考える子 思いやりのある子 がんばりぬく子」

夏休みの憂鬱

校長 中村 篤

いよいよ明日から子どもたちが待ちに待った夏休みです。楽しいイベントもたくさん計画されていることでしょう。しかし、子どもたちにとっての大きな課題として「宿題」があります。その宿題の中でも特に親子を悩ませるのが、「自由研究」と「読書感想文」です。本来は子どもだけの力でやらせるのが一番だと思いますが、力の付いていない子どもにゼロからやらせるのには無理があります。私の小学6年生になる息子も例外ではありません。そこで、親の出番となります。我が家では、私が自由研究を、文章を書くことが得意な母親が読書感想文を支援します。

私は今も昔も文章を書くことが一番苦手なことなので、小・中学生のころは毎年読書感想文に苦しめられました。学校だよりを書いている今この時も苦しくてたまりません。保護者の方の中にも、同じような思いをされた方がいるのではないのでしょうか。もし私が息子の感想文を支援しなければならなくなったとき、どのようにしようか考えました。①一緒に悩みながら書く→そもそも私が苦手なので、いつまでたっても進まない。②作文の書き方の本を参考にし、書き方を学ぶ→書き方の手順やフォーマットがわかりやすく説明されているので一番現実的かも。③休み中、学校の先生にお願いして書き方を指導してもらおう→息子だけのために指導してもらうのは気が引けるし、先生に負担をかけたくない。④そうだ、誰かに代わりに書いてもらおう→考えるだけでも絶対にダメ！といったところでしょうか。もう一つありました。今はやりの「生成A I」(ChatGPT など)に書かせる方法です。もし私があの名探偵みたいに大人の知識をもったまま小学生に戻ったとしたら、おそらく生成A Iの誘惑に負けてしまうことでしょう。

過日、生成A Iについて文部科学省から小中高校向け指針が公表されました。指針は「生成A Iを使いこなす力を意識的に育てる姿勢が重要」と強調し、また、批判的思考力や創造性への影響といった懸念に言及し「限定的な利用から始めることが適切だ」と指摘しています。さらに、指針には夏休みの読書感想文やコンクールへの作品応募の際、生成A Iを使ったのに自分で作成したと装って提出するのは不正行為だと指導する必要性についても盛り込まれています。

私は生成A Iの利用を否定するつもりはありません。国会でも質疑や答弁の原案づくりに利用するなど、活用が広がっています。大切なことは、情報すべてを鵜呑みにして丸写しするのではなく、情報の真偽を確かめ、それを参考にしながらよりよいものを作り上げることだと考えています。

今から息子の宿題に付き合わされることを考えると憂鬱になりますが、保護者の皆様、しっかりと宿題を終えられるよう、共に子どもの尻を叩きながら頑張っていきましょう。

◆◇悩みを相談できる相談窓口◆◇

学校生活のことや友達関係のことなど、様々な悩みを相談できます。悩みを聞いてもらうだけで、気持ちが軽くなることがあります。一人で悩まず、ぜひ相談してください。

■さいたま市24時間子どもSOS窓口 0120-0-78310 (毎日24時間)

■その他 さいたま市には様々な相談窓口があります。

「相談窓口のご案内」<https://www.city.saitama.jp/002/001/016/001/p033924.html>

※学校HPのトップページにもリンクバナーがありますので、そちらからもご覧いただけます。